

平成30年度

# 議会行政調査報告

研修日：平成30年5月30日(水)～6月1日(金)

研修・訪問地：【1日目】長崎県大村市  
【2日目】長崎県雲仙市  
【3日目】熊本県熊本市

研修内容：

- 人口増加への具体的な取り組み・施策について

## 国見町議会

東海林 一 樹 議長	・ ・ ・ ・ ・	2
阿 部 泰 藏 議員	・ ・ ・ ・ ・	3
八 島 博 正 議員	・ ・ ・ ・ ・	4
松 浦 常 雄 議員	・ ・ ・ ・ ・	5
渡 辺 勝 弘 議員	・ ・ ・ ・ ・	7
佐 藤 定 男 議員	・ ・ ・ ・ ・	9
村 上 一 議員	・ ・ ・ ・ ・	10
松 浦 和 子 議員	・ ・ ・ ・ ・	12

# 平成30年度 国見町議会行政調査報告書

平成30年6月11日

国見町議会議長 東海林一樹

## 【研修内容】

### 1. 長崎県大村市

今年4月、大村市園田市長名で行政視察の案内があり、それによると大村市は長崎県内で唯一人口が増え続けている自治体がキャッチフレーズで、その要因は何にあるのか、非常に興味があった。人口を増やすのには欠かすことのできない3要素がある。そのことを聞いてみた。

#### ①雇用

平成30年度に新たな工業団地の完成を予定しており、新たに500人の雇用が見込まれる。企業誘致については、県の担当部署と一緒に推進している。市外アクセスの良さを生かし、働く場所は長崎、佐世保、暮らしは大村で、というスタイルを提案している。

#### ②住まい

土地・賃貸物件が安い中で人口が増えているため、民間の開発が盛んで物件が豊富である。三世代同居、三世代近居する方を対象に、住宅の取得や新築、改築費用等の助成を実施。

#### ③子育て

市の独自政策として、保育料2子目以上は無料、室内遊び場を備えた子育て支援センターの設置、特定不妊治療費助成、不育症治療費助成、全中学校の教室にエアコン整備。

#### ④その他

医療機関の充実、買い物の便利さ、市外アクセスの良さ、自然の遊び場が豊富などの理由を挙げている。

### 2. 長崎県雲仙市

翌日、東日本大震災でお見舞いと義援金を頂いた長崎県雲仙市を表敬訪問し、市長始め多くの旧国見町出身の議員の方々の歓迎を受けた。

## 【感想】

大村市は、とにかく暮らしやすい町だという印象で、市で提案しているベッドタウン的要素があると感じた。

3日目の熊本市熊本城の視察では、地震被害の大きさに心が痛くなった。

以上

# 平成30年度 国見町議会行政調査報告書

平成30年6月11日

国見町議会議長 東海林一樹様

国見町議会議員 阿部泰藏

## 【研修内容・感想】

### 1. 長崎県大村市

長崎県内に13市ある中で、随一人口が増加している状況の調査。

大村市は、長崎県の中央という立地や交通のアクセスが良く、住宅の環境、充実した医療環境など住む人にとって暮らしやすい条件がバランスよく整っていること、さらに、子育て支援を充実させる取り組みも行っている。2人目以降の子供の保育所、幼稚園の無料化や小学校児童医療費の助成など子育てしやすい環境づくりの取り組みに力を入れて人口増加になっていると思う。

大村市の更なる発展と活力ある地域社会を構築するため、2025年の人口10万人を目指す「大村市人口ビジョン」を策定し、人口の増加に取り組んでいる。

### 2. 諫早湾干拓事業

諫早湾干拓事業は、広大な農地の確保と農地の冠水被害（塩害）防止が目的である。1989年（平成元年）農水省は、計画を3分の1に変更し、工事着工した。平成20年3月に総事業費2530億円をかけ完成された。造成された広大な農地では、大麦の収穫が行われており、立派な麦であった。

### 3. 長崎県雲仙市表敬訪問

平成の大合併以前は、福島県国見町、長崎県国見町、大分県国見町の3県の国見町の交流が行われていた。交流は、毎年町長、各議会が一堂に会する人的交流や特産品の交流を行っていたが、平成の大合併で長崎県国見町は雲仙市に、大分県国見町は国東市へ合併となった。

東日本大震災の際に多額の義援金を賜り、お礼を申し上げる機会ができ良かった。

### 4. 熊本城の視察

平成28年4月14日に発生した熊本地震によって、熊本県では死者250人を出す大きな被害となった。

熊本城は、加藤清正が1607年に築城し、築城400年を迎えたが大被害となった。一日も早い復興をお祈りする。

以上

# 平成30年度 国見町議会行政調査報告書

平成30年6月11日

国見町議会議長 東海林一樹様

国見町議会議員 八島博正

## 【研修内容・感想】

### 1. 長崎県大村市

生活の環境整備が良く、住むなら大村市という意識が県内住民にあり、自然の素晴らしさと交通の利便性により人口増に結びついている。また、子育てしやすい政策が各種にわたり充実している。大村市の研修はもう少し中身のあるものにしたかった。

### 2. 長崎県雲仙市

市長をはじめ議長や旧国見町の議員も全員出席し目的が充分達成できた。

### 3. その他

諫早湾干拓の様子や雲仙岳災害記念館、熊本城の現地訪問は大変良かった。

以上

# 平成30年度 国見町議会行政調査報告書

平成30年6月11日

国見町議会議長 東海林一樹様

国見町議会議員 松浦常雄

## 【研修内容・感想】

### 1. 長崎県大村市

大村市は、長崎県のほぼ中央にあり、西は大村湾、南は諫早市、北は東彼杵市に接している。人口95,647人、世帯数42,436世帯である。自然的環境に恵まれており、世界初の海上空港、高速道路があり、交通のアクセスがよく、住宅が手に入りやすい、病院が多いなど、生活しやすい条件がそろっていることから、長崎県内で唯一人口が増加している市である。長崎市や、佐世保市などで仕事をする人々のベッドタウンになっている。交通の便がよい我が町も見習う点が多いと感じた。

- ・ 県と連携して企業誘致を計画している。6～8社が来る見込み。優遇措置として①固定資産税の減免②地元人採用に助成金を出すなどの工夫がなされている。
- ・ 「大村市移住施策に関するターゲット方針」は長期にわたる人口動態の調査資料を基に今後の人口推移と「人口ビジョン」の目標を設定し、それを達成できるように20代から30代の子育て世代をターゲットに生活しやすい大村市をPRするプロジェクトである。
- ・ 保育料は、2子目以上無料で、市独自の制度である。室内遊び場を備えた子育て支援センターを整備する。
- ・ 特定不妊治療費、不育症治療費を助成。(県の制度に市が上乘せしている。)

### 2. 長崎県雲仙市表敬訪問

雲仙市は、人口44,266人、世帯数17,221世帯。平成17年10月11日市制施行。長崎県国見町は、他の町と合併し雲仙市となった。合併前は大分県の国見町とともに、私たちの国見町と同じ町名であることから交流を重ねてきた。

今回は、東日本大震災の折に、雲仙市及び、国見町出身の雲仙市議員からそれぞれ多額の義援金をいただいたことに対する表敬訪問を行ったものである。対面式の中で、東海林議長から国見町長の親書を雲仙市長へ手渡し、雲仙市長から心のこもった歓迎のあいさつがあった。旧国見町出身の雲仙市議会議員からも私たちの町の復旧・復興への温かい思いが伝えられ感激した。

### 3. 熊本城視察

熊本地震により天守閣や石垣などに大きな被害を受けた熊本城は、復旧工事が進められていた。現場を見て、改めて被害の大きさに驚いた。見学者用の通路が設けられ、復旧工事の状況を見学できた。見学者が多く、熊本城の復旧を望む人々がいかに多いかを示していると感じた。

以 上

# 平成30年度 国見町議会行政調査報告書

平成30年6月6日

国見町議会議長 東海林一樹様

国見町議会議員 渡辺勝弘

## 【研修内容・感想】

### 1. 長崎県大村市

長崎県大村市役所内において、「大村市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定して人口10万人を目標にかかげ、人口10万人を達成するために、出生数を増加させ死亡率を抑制する自然増への取り組みのほか、特に移住者の増加に向けた具体的な実施方針の説明を受ける。

人口増は、出生数が死亡数を上回る自然増に加え、転入者が転出者を上回る社会増の2つの要因によるものである。

海・山・歴史的建造物もあり、年間観光客も年々増加しつつ、道の駅の開設や様々なイベント、催しを行っており、そこで、交通の利便性や環境の安全性をPRしているようである。

併せて、65歳以上の高齢者の割合が24.1%であり、当町においては28.0%であり、いかに高齢化率が低いかがわかる。また、15歳未満の子どもたちは16.0%であり、当町の12.4%を大きく上回っており、いかに住みやすく、子育てしやすい環境なのかがわかる。また、企業誘致として新たに増設しており、企業が選べる要素があるのではないかと考える。

自衛隊も3,000人から10,000人に増強され家族も増えたことも要因にあると考える。では、当町においては、人口増加は考えられないのだろうか。インターチェンジがあり、交通の便がよく医療の中心である藤田病院もあり、環境においても自然豊かであり、大村市に劣らないものがたくさんあると思う。企業誘致をして、雇用が生まれれば家族が増え人口増加につながる事が最大の武器であることは間違いのないことである。しかし、そのための施策は講じても、今まで結果がついてこないのは残念なことである。更なる工夫が必要ではないかと考える。

### 2. 長崎県雲仙市表敬訪問

東日本大震災において多額な義援金を頂いた、長崎県旧国見町の議員がおられる雲仙市を表敬訪問した。長崎県旧国見町議員7名の皆様をはじめ、市長から熱烈な歓迎を受けた。議長より町長からの親書を読み手渡した後、意見交換を行った。復興までの道のりや、「道の駅国見あつかしの郷」、「くにみ農業ビジネス訓練所」等への意見や様々な意見交換をさせていただき、今後も友好関係

を築いていくことをお互いに確認し合った。  
実りある研修、訪問であった。

以 上

# 平成30年度 国見町議会行政調査報告書

平成30年6月6日

国見町議会議長 東海林一樹様

国見町議会議員 佐藤 定男

## 【研修内容・感想】

### 1. 大村市（長崎県内で唯一人口が増加している理由は何か）

- 自然の豊かさと都会の便利さが程よく融合しており暮らしやすい。
  - ・医療機関（個人医）の充実、自然の遊び場が豊富
  - ・市外アクセスの良さ（長崎空港から15分、高速道、新幹線が整備）
- 土地や賃貸物件、物価が安い。民間の開発が進んでいる。
- 下水道普及や子育て環境の充実など他自治体に先行して取り組んできた。
- 雇用について
  - ・平成30年度に新たな工業団地が完成予定、500人の雇用を見込む。
  - 仕事は長崎・佐世保、暮らしは大村で、というスタイルを提案している。

### 2. 長崎県雲仙市表敬訪問（平成17年10月、国見町他6町が新設合併）

- ・同じ町名（国見）の縁で交流を深めてきた。
- ・東日本震災時に多額の義援金を受けており、改めて感謝を申し上げた。
- ・雲仙市長、議員の方々と思い出話や近況報告などで親睦を深めた。

### 3. 雲仙岳災害記念館（平成2年の雲仙普賢岳の噴火・災害に関する施設）

- ・雲仙普賢岳の災害を映像で確認、火砕流・土石流は想像を超えていた。
- ・自然の脅威と災害の教訓を忘れまいとする、このドームの意義は大きい。

### 4. 熊本城

- ・平成28年4月、震度7の地震で天守閣、石垣、櫓などが損傷した。
- ・地震の被害を目の当たりにして改めて自然災害の恐ろしさを実感した。

## 【感想・意見】

- 大村市の人口増加は自然の豊かさ、暮らしやすさが大きいと思うが行政側の施策（子育て環境の充実など）も功を奏しているのであろう。
- 国見町も身の丈に合った生活環境の整備を目指すべきではないか。
- 自然災害の脅威を改めて感じた。常に頭の片隅に置かねばならない。

以上

# 平成30年度 国見町議会行政調査報告書

平成30年6月6日

国見町議会議長 東海林一樹様

国見町議会議員 村上 一

## 【研修内容・感想】

### 1. 大村市(人口増加への具体的取り組み施策について)

大村市は長崎県内で唯一人口が増加している市である。長崎県の中心で海あり山あり、また歴史に奥深く（大村藩）キリシタンの遺跡も多く残っていて、自然の豊かさと都会の便利さが程よく融合しており暮らしやすい。理由としては、医療機関の充実・買い物の便利さ・市外のアクセスの良さ（交通の便利性）・自然の遊び場が豊富（市営のボートレース場）・土地や賃貸物件、物価が安い・下水道普及・子育て環境の充実など、ほかの自治体に先行して取り組んできたことがあげられる。

#### ◎雇用について

- ・平成30年度に新たな工業団地（4区画）が完成
- ・起業希望者を対象に創業塾を開催

#### ◎住まいについて

- ・三世代同居や三世代近居する方を対象に助成

#### ◎子育てについて

- ・保育料第2子目以上から無料
- ・子育て支援センターを整備

大村市では、働く場所は長崎・佐世保、暮らしは大村というスタイルを提案している。

### 2. 諫早湾中央干拓地視察

干拓地は672haある。平成20年4月から営農を開始し、畑作物を栽培（40種類の野菜）している。個人や法人で41の経営体が入植し、耕作面積は個人で平均7ha、法人で30haでの大区画営農である。

### 3. 雲仙市役所表敬訪問

雲仙市長、雲仙市議会議長を始め雲仙市国見町出身議員など多数の議員より歓迎をうける。

## 【感想】

大村市は海も山もあり自然が豊かで交通の便利さもあり生活するのにとても

よい環境であると思う。また、行政からも雇用・住まい・子育てについてさまざまな助成や支援を実施しており、それらが人口増に繋がっている。国見町での前年度出生数 27 人に対し、大村市の出生数は 1000 人前後で推移している。このことから見ても大村市は生活の場であり、生活重視の街づくりを進めていると強く感じた。

以 上

# 平成30年度 国見町議会行政調査報告書

平成30年6月8日

国見町議会議長 東海林一樹様

国見町議会議員 松浦和子

## 【研修内容・感想】

### 1. 大村市

長崎県大村市企画制作部職員より「大村市移住施策に関するターゲット方針」の資料を参考に、2025年に人口10万人を目標に掲げている「大村市人口ビジョン」と実現のための「大村市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を平成27年に策定。その具体的な実施方針について説明を受けた。

- 人口の現状 ●今後の人口推計と「人口ビジョン」の目標
- 移住施策に関するターゲット設定 ●プロジェクト

### 2. 諫早湾中央干拓地視察(干拓の里職員の説明)

諫早干拓が始まったのは、鎌倉時代の終わりごろで、これまで26,000haの干拓地を築いてきた。672haに春、秋、それぞれ約10種類の野菜を生産している。

### 3. 雲仙市役所表敬訪問

東日本大震災の際に雲仙市、雲仙市議会から多額の義援金をいただいたことに対する表敬訪問。

### 4. 雲仙岳災害記念館

平成2年11月17日に普賢岳から噴煙が上がってから平成8年6月3日の噴火活動の終息宣言まで6年。その歴史を生々しく再現された記念館を視察。

### 5. 熊本県熊本市熊本城復旧状況視察

平成28年4月14日21時26分に発生した震度7の熊本地震により甚大な被害を受けた熊本城の復旧状況を視察。

## 【感想】

長崎県のほぼ中央に位置する大村市は人口95,647人(平成30年3月31日現在)、県内13市で唯一人口が増加し続けているとのこと。長崎空港は雇用の場、特に女性の働く場所の確保に大きな役割を果たしていると思った。また、土地の価格が安いということもあり、人口増の1つの要因として、近隣市のベッドタウンになっていると思った。諫早中央干拓地の広さにはただ驚きであった。ハウスが距離にして1kmもあろうかと思うぐらいであり、まるでハウスの団地

であった。長い歴史と多くの困難を乗り越えて出来た干拓地を視察でき、大変良かった。雲仙市への表敬訪問は大変な歓迎を受け感激した。熊本城は石垣が崩れ被害の甚大さは想像以上であった。熊本城再建に全体費用600億円をかけ、20年後には城全体の再建を予定しているとの事である。

以 上